

### 京都民医連

## 「2019年国民健康保険に関するアンケート調査」結果について

# 患者・利用者の姿と言葉を見つめ、生活・経済的困難を把握することが大切

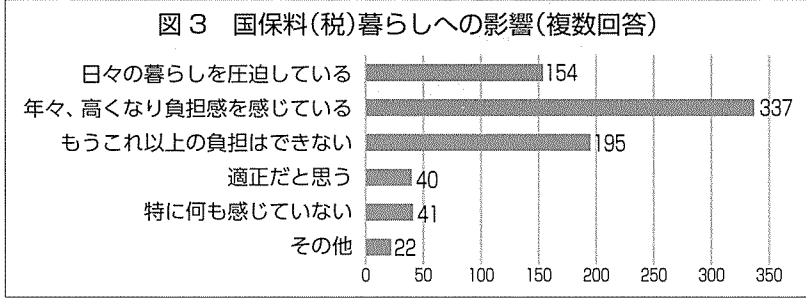
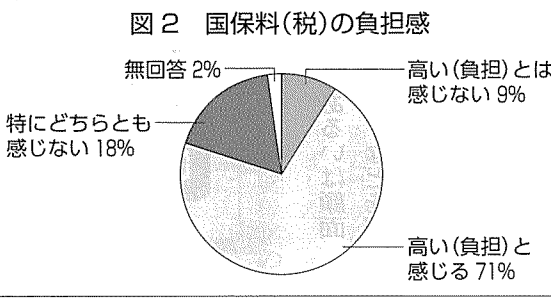
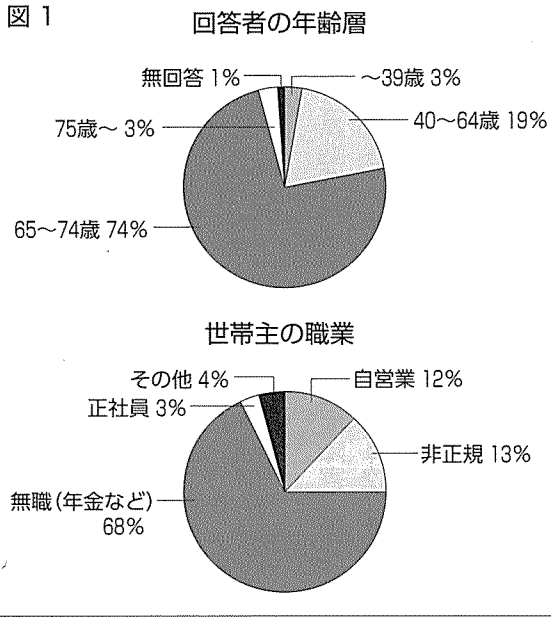
京都民医連は、2019年10月1日から12月にかけて、加盟全法人・事業所に、国保の被保険者を対象にした国民健康保険制度についてアンケート調査を呼びかけました。京都民医連の医科、歯科、介護、保険薬局の事業所7法人33事業所で実施され、648人から回答が寄せられました。アンケートの結果からは、改めて国保加入者の保険料(税)(以下、国保料)に関する思いや生活実態等の深刻な状況が浮き彫りになりました。

### 国保加入者の高齢化と低所得化

回答者の年代別では、65歳～74歳までが74%、64歳以下が23%と現役引退世代が7割を占めました。世帯主の職業を尋ねたところ、無職(年金生活・その他)68%、非正規(パートなど)13%、自営業12%と、低収入・不安定収入の方が多いことが伺えます(図1)。

### 7割が国保料を高い(負担)と感じる

国保料の負担感を尋ねたところ、回答者の71%が「国保料を高い(負担)と感じる」と回答しました(図2)。



を尋ねたところ(複数回答)、「年々高くなり負担を感じている」が53%、「こ

れ以上の負担はできない」が30%、「日々の暮らしを圧迫している」が24%と、国保料が負担となっていることを裏付ける結果でした。

### 滞納理由の半数が「保険料が払えない」

滞納理由(複数回答)として、「保険料が払えない」と答えた方が40%と、国保料が「高」なことが明らかになりました。また、「生活費が足りない」と答えた方も24%と、生活費の不足が滞納の理由となっていることがわかります。

### 4割が「減免制度を知らない」

高すぎる国保料が浮き彫りとなったところで、京都民医連の各事業所でも案内している、保険料減免や一部負担金減免制度、無料について「知らない」が38%

### 「払える保険料にして欲しい」の声は、「いのちの叫び」

最後に、国民健康保険に関する要望(複数回答)を尋ねてみました。「保険料額を下げたい」が74%、「医療機関で支払う一部(窓口)負担額を下げて欲しい」が59%、「安心して病院や診療所にかかることができるようにしてほしい」が51%、「資格証明書の発行や滞納者へ

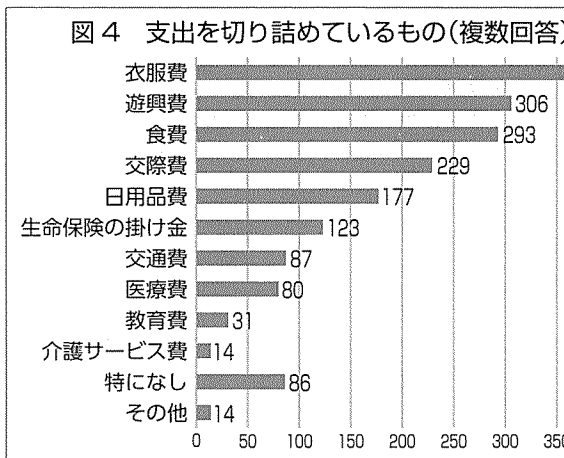
### まとめ

今回の調査でわかったことは、生活・経済的困難な方ほど、本来必要な医療や介護、福祉施策から遠ざけられているということです。

「一部(窓口)負担減免制度」について「知らない」が42%、「無料または低額診療事業」について「知らない」が40%と、十分な周知されていないことが判明しました。私たちが、事業所での相談活動や広報をもっと強めていかなければいけないと痛感するものです。

### 生活費をやり繰りして、必死に国保料を収める姿が浮き彫りに

高い(負担)となっている国保料を収めるために、家計支出で切り詰めている「衣服費」58%、「遊興費」47%、「食費」45%でした(図4)。「交通費」35%、「医療費」13%との回答もあり、こうした費用を削ることは人や社会との繋がりが途切れて孤立することが懸念されます。「医療費」



「遊興費」47%、「食費」45%でした(図4)。「交通費」35%、「医療費」13%との回答もあり、こうした費用を削ることは人や社会との繋がりが途切れて孤立することが懸念されます。「医療費」

京都民医連は、こうした日常の困難さを把握している医療・介護・福祉事業者の話を聞き、必要な対策をとり、受療権を守る取り組みとして、①高すぎる国保料に対して、京都市の法定外繰り入れの継続と増額を